

戦略的魚介藻類養殖に向けての取り組み



(一財) 函館国際水産・海洋都市推進機構
連携研究員 安部 智貴

海洋研究センターの中期目標（2019～2022）

- ①基幹産業サポート：頭足類・海藻類の産業支援拠点形成
- ②漁楽サポート：海洋観測・漁業機器の研究開発拠点形成
- ③食楽サポート：戦略的魚介藻類養殖システムの研究開発拠点形成
- ④街楽サポート：文理芸術融合型新産業育成拠点形成

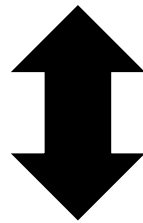
北海道の水産業について

北海道における魚類生産の主体は**漁業**

(養殖はコンブやホタテ等が主体，魚類養殖はほとんど行われてこなかった)

その根底は、「豊富な漁獲量」と「豊富な人材」

魚類養殖の必要性？



一方，近年では

- 漁獲量が不安定に
- 漁業従事者の高齢化，後継ぎ不足（漁村の過疎化）

水産物の安定供給と地域の活性化に向けて
北海道においても「魚類養殖」の機運が高まる

食楽サポート：戦略的魚介藻類養殖システムの研究開発拠点形成

○戦略的魚介藻類養殖対象種

➡ サケ・マス類，ソイ類等を試験対象魚として飼育

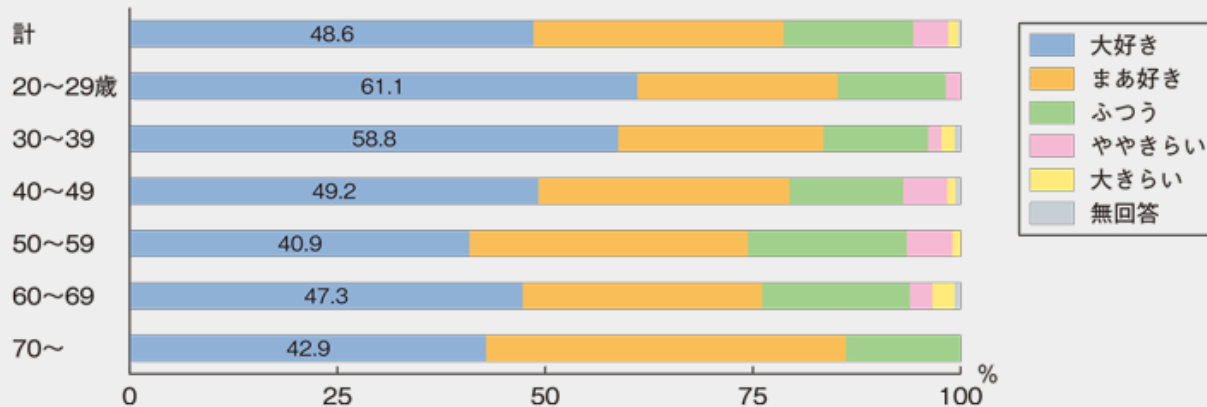
★共同研究機関（海洋研究センター入居機関）

- 稚魚供給・技術協力
：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
七飯淡水実験所
- 飼育魚提供・技術協力
：北海道大学大学院水産科学研究院
- 飼育・養殖技術研究
：(株)古清商店
- 統括：(一財) 函館国際水産・海洋都市推進機構

サケ・マス類養殖について

サケ・マス類について、消費者の好みと輸入先（水産庁資料）

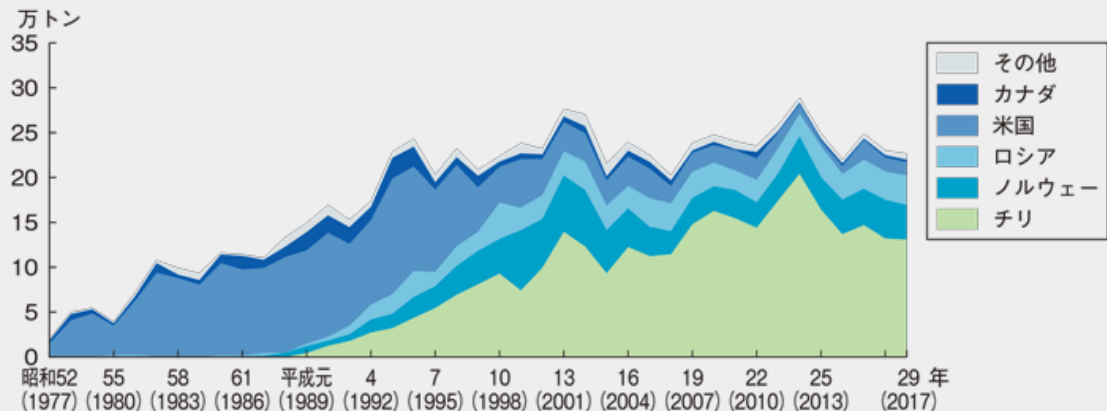
図4：「サーモンが大好き」と答えた人の割合



資料：（株）オレンジページ「次のくらしデザイン部」調べ（平成30（2018）年12月実施、男女1,130人を対象）

世代を問わず、日本人はサーモンが好き！

図2：日本のサケ・マス類国別輸入量



資料：財務省「貿易統計」に基づき水産庁で作成

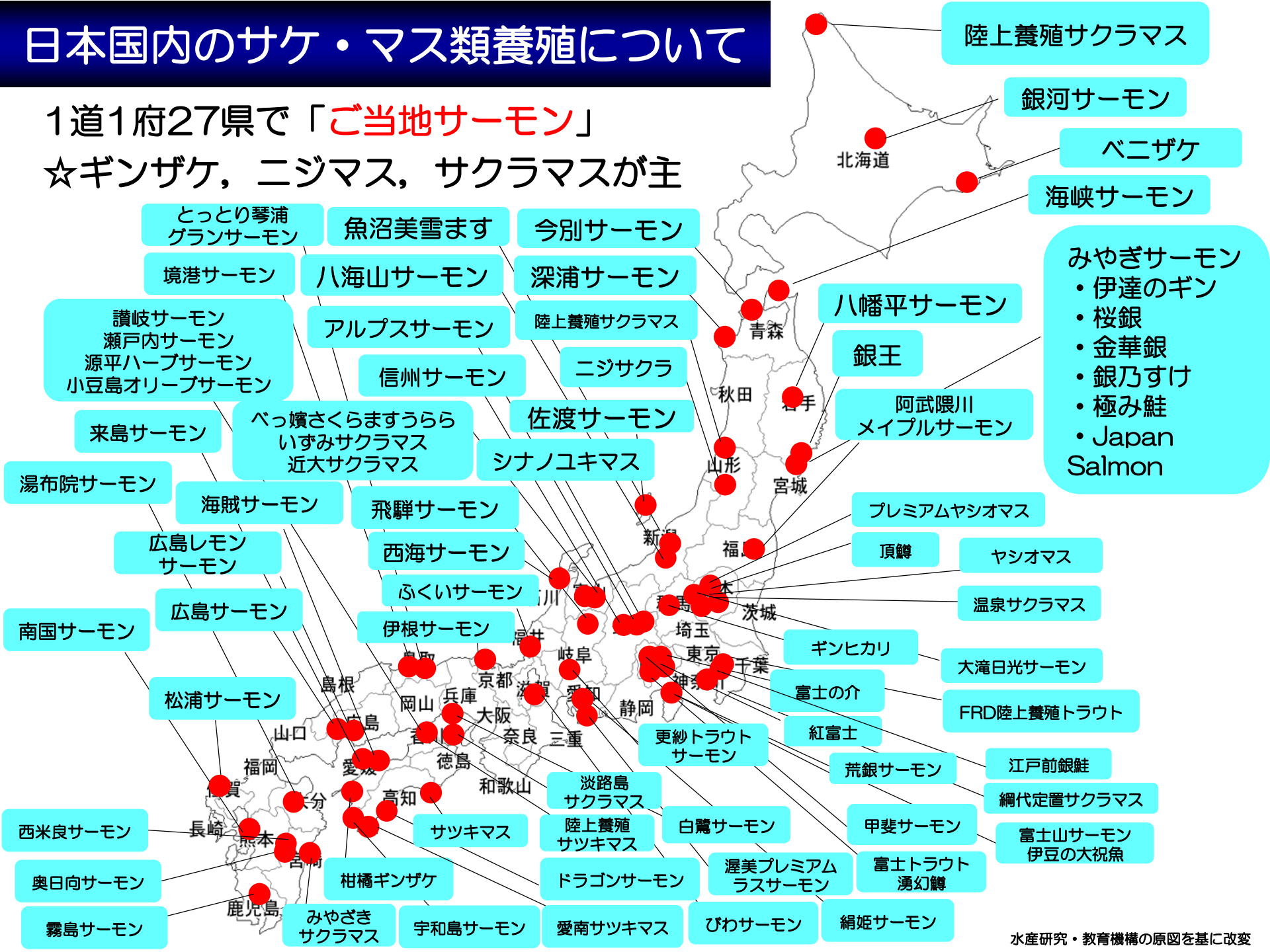
国内向け輸入量はチリやノルウェー産が多い

近年の地産地消の動きもあり、国産サーモンの需要が高まる！

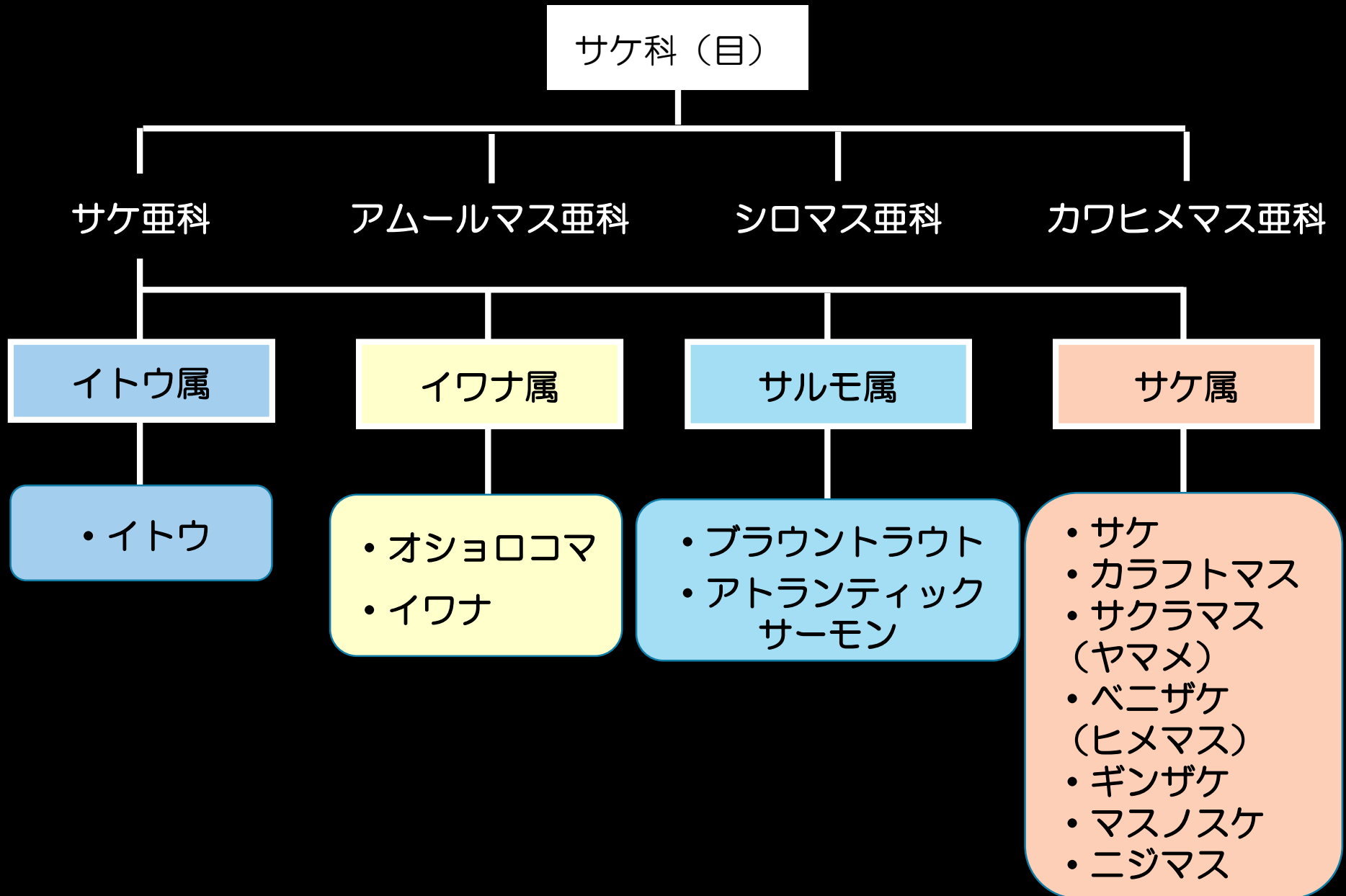
日本国内でサーモン養殖の動きが活発化

日本国内のサケ・マス類養殖について

1道1府27県で「ご当地サーモン」
 ☆ギンザケ, ニジマス, サクラマスが主



サケ科魚類について



養殖に適した魚種の探索

2019年1月から共同機関協力の下、サケ・マス類の飼育試験を開始



ニジマス（一般的）



イトウ（希少性）



北海道大学藤本准教授提供

マスノスケ（高インパクト）

今後の取り組み

北海道大学, (株)古清商店, 推進機構による共同研究

- ニジマス (北海道大学所有の系統)

➡ 平均体重15gの稚魚の海水生存性を試験中

海水適応能があった場合,

早期の海水飼育が可能になり, 出荷までの短縮化の可能性

- イトウ

➡ 500gサイズの個体を出荷サイズまで育てる

➡ 身色の改善試験中

- マスノスケ

➡ 500gサイズの個体を出荷サイズまで育てる

今後の取り組み



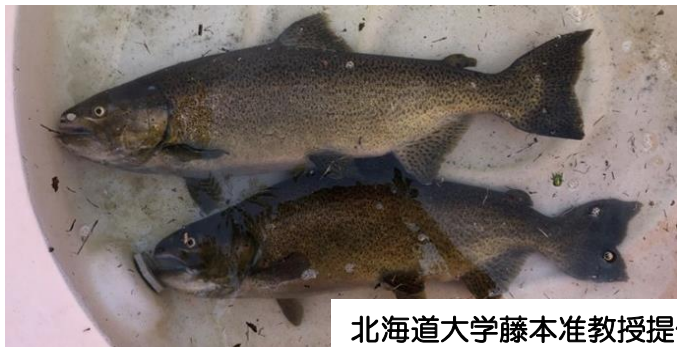
ニジマス

スタンダードなサーモン
国際展開の可能性



イトウ

計画的に生産を行えば、種苗の確保が可能
環境耐性が高く、比較的飼育しやすい
ご当地サーモン（函館ペリーサーモン）
パイロット研究開発の可能性



北海道大学藤本准教授提供

マスノスケ

種苗の確保が困難、翌年度種苗供給？
kg単価が高く、高級サーモンのイメージ
函館圏の戦略的商品の可能性